

日本うつ病学会 会員の皆様

謹啓

暑中お見舞い申し上げます。

7月19日（金）・20日（土）に北九州国際会議場・AIMビルにて開催しました第10回日本うつ病学会総会では多大なるご協力・ご支援を頂き、誠にありがとうございました。

つつがなく終了しましたので、あらためてお礼とご報告を申し上げます。

開催期間中は心配していた台風や豪雨の災害は免れましたが、代わりに焼け付くような猛暑でございました。

その中で1,200名を超える皆様にご参加をいただきました。

また2日目の最後に開催した市民公開講座では約350名の参加がありうつ病の啓発に寄与することができました。

うつ病患者を一人でも減らすために英知を結集した2日間となることを目指し、プログラムは大会テーマの「多様化するうつ病の今とこれから」を反映した内容で構成いたしました。

様々なバックグラウンドの方々が参加する本学会ならではの、職種を超えた議論がそれぞれのセッションで展開されたのは期待通りでした。

各シンポジウム・ワークショップはテーマのひとつひとつが重要なものばかりでしたが、初日の「身体疾患領域で求められる精神科医療：ナショナルプロジェクトから」、2日目の「いわゆる“新型うつ病”に対する学会見解を目指して」のシンポジウムは、特にマスコミの注目度も高く取材陣も大勢押しかけました。

次回、第11回日本うつ病学会総会は「うつ病治療の再考～脳科学からメンタルヘルスマで～」をテーマに、会長：広島大学 山脇成人教授のもと、2014年7月18日（金）・19日（土）に広島国際会議場で開催されます。

今回に引き続き変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

2013年7月吉日

第10回日本うつ病学会総会  
会長 中村 純